第72回

大阪市廃棄物減量等推進審議会

資料

令和８年10月５日

大阪市環境局

目　次

■　報告事項

1	ごみ処理のひっ迫について
2	令和７年度のごみ量について
3	令和７年度ごみ量と前計画との比較について
4	令和８年度のごみ量について

■　議　題

5	さらなるごみ減量の推進について

1　ごみ処理のひっ迫について（①ごみの焼却処理について）

■大阪広域環境施設組合について

・大阪市、八尾市、松原市、守口市の４市から排出される一般廃棄物の焼却処理及び埋立処分を共同実施
・焼却処理として６焼却工場の運営・１焼却工場の建替え、ごみの最終処分として埋立事業を実施

焼却工場一覧

焼却工場	稼働年	稼働年数	処理能力
西淀工場	1995(H7)年	31	600ｔ／日
八尾工場	1995(H7)年	31	600ｔ／日
舞洲工場	2001(H13)年	25	900ｔ／日
平野工場	2003(H15)年	23	900ｔ／日
東淀工場	2010(H22)年	16	400ｔ／日
住之江工場	2023(R5)年	4	400ｔ／日
合計	-		3800ｔ／日
鶴見工場（建替中）	2029(R11)年予定	―	620ｔ／日

ごみ処理施設の配置



※2023（R5年）住之江工場竣工、建替えのため鶴見工場停止により、200t/日の処理能力減

1　ごみ処理のひっ迫について（②ひっ迫の状況）

・本年6月下旬以降、焼却工場でごみピットが満杯状態となっており、ごみ投入扉の約6～7割が閉鎖
・搬入車両の輻輳、搬入先工場の頻繁な変更が発生
（これまでのところ、本市の普通ごみ収集に目立った遅延等は無し）

● 平野工場の状況

通常時



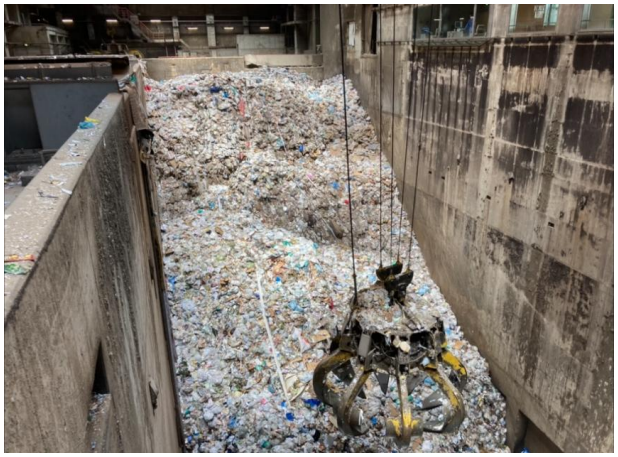
ピットへのごみ投入口

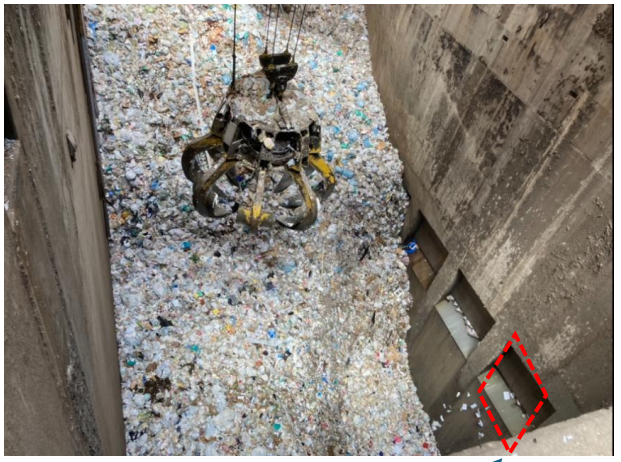
逼迫時（写真は7月）



投入ホッパー
（焼却炉へのごみ投入口）

※投入ホッパーまでごみが積上がり、
ピットへのごみ投入口の相当数が
塞がれた状態
（９/15現在　９門中6門が使用不可）

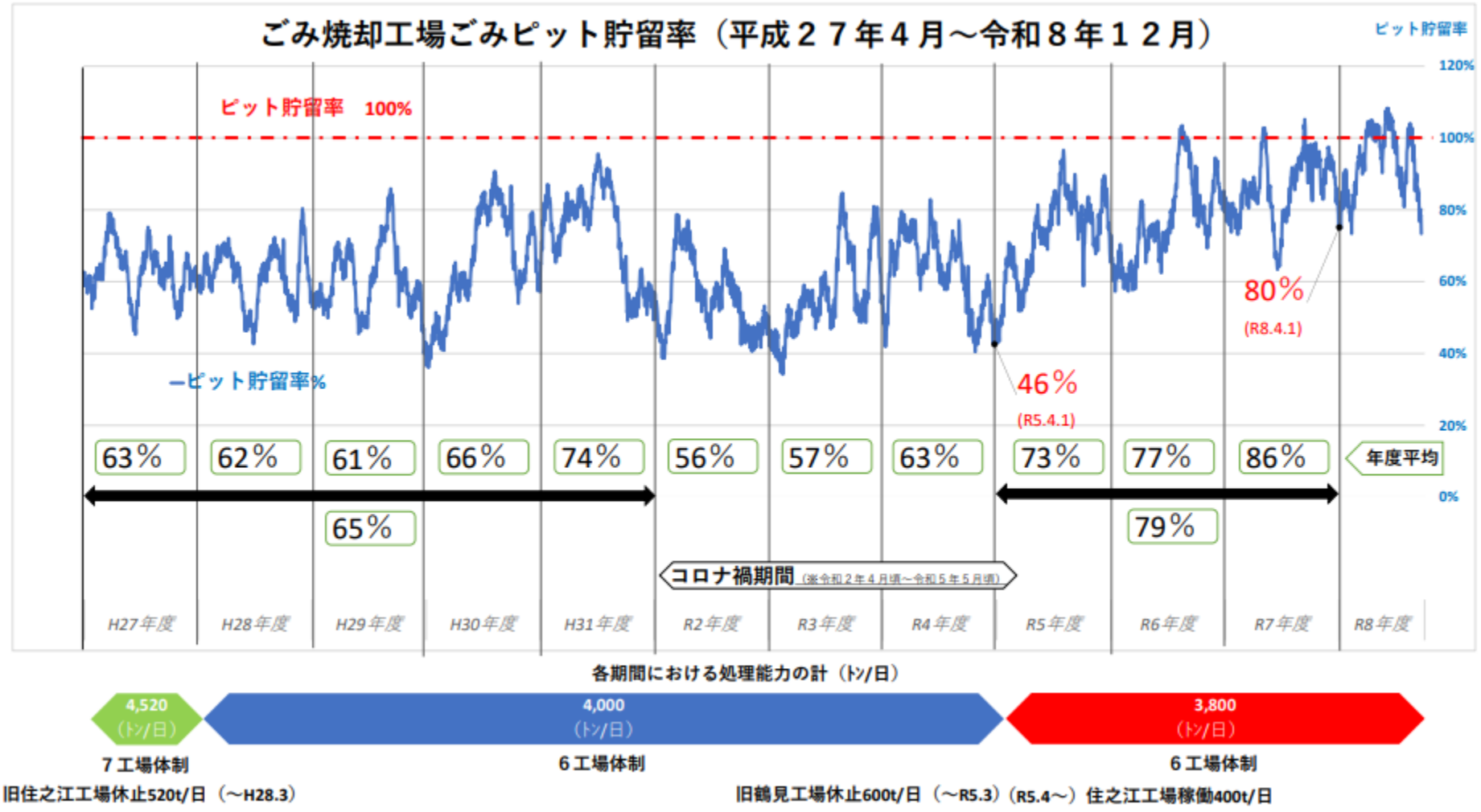




ピットへのごみ投入口

1　ごみ処理のひっ迫について（③ピット貯留率の推移）

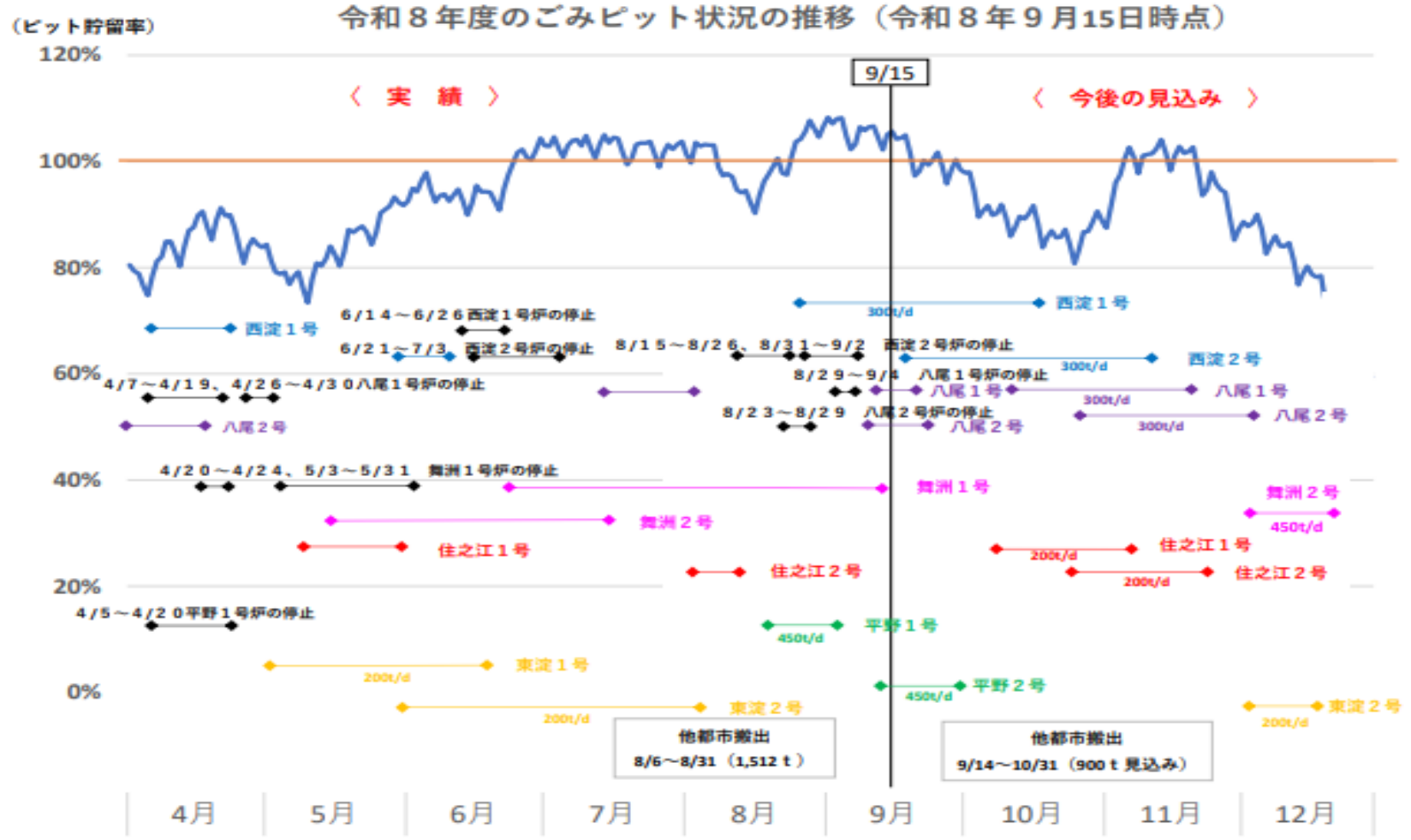
・令和5年度以降、ごみピットのごみの貯留率が増加傾向となっている。



作成：大阪広域環境施設組合

1　ごみ処理のひっ迫について（④R8年度のピット貯留率）

・本年6月下旬にごみピット貯留率が100%を超え、8月中旬まで高いピット貯留率が継続
・一旦90%まで低下したが、8月下旬から９月下旬までピット貯留率が100%を超えるひっ迫状況が継続
・10月下旬には80%まで低下が見込まれるものの、11月上旬から中旬の間は、100%を超過する見込み



作成：大阪広域環境施設組合

1　ごみ処理のひっ迫について（⑤原因の分析❶）

■近年のごみピット貯留率上昇の原因

・**現行の焼却工場の処理能力は、3,800ｔ/日（R5～10年度）**

➢**組合の前基本計画（～R7年度）は、年間297日稼働と設定【3,800ｔ/日×297日＝年間112.9万ｔ】**

・**近年のごみ処理量の実績**（他都市ごみ含む）：R5年度 99.9万トン、R6年度 100.5万トン、R7年度 100.3万トン

➢**R5年度以降のごみ処理量は、処理能力（3,800ｔ/日×297日）の範囲内かつ10%の処理余力も計画上確保**

・**焼却工場の稼働日数：R5～７年度の稼働日数（実績）は、全６工場平均で270～274日**

近年（R5～7年度）のごみピット貯留率の上昇傾向の主な原因は、工場の稼働率が計画と比べ低いことである。

○ごみ処理量及び処理余力の推移

	年間ごみ処理量（ﾄﾝ）						A.1日当たりごみ処理量(ﾄﾝ)※1	B.処理能力計（ﾄﾝ/日）	処理余力 (B-A)/A %	平均ピット貯留率	基本計画※2		
	大阪市	八尾市	松原市	守口市	他都市	合計					処理量(万ﾄﾝ)	1日当たり(ﾄﾝ)	実績/計画
H27	922,523	71,740	25,005	—	1,804	1,021,072	3,438	4,520	31.5%		107.5	3,620	95.0%
H28	898,806	68,908	25,313	—	1,963	994,989	3,350	4,000	19.4%		106.5	3,586	93.4%
H29	902,367	65,489	26,564	—	1,728	996,148	3,354	4,000	19.3%		105.6	3,556	94.3%
H30	933,748	67,274	27,191	—	2,004	1,030,218	3,469	4,000	15.3%		104.6	3,522	98.5%
R1	930,526	69,026	28,683	—	931	1,029,165	3,465	4,000	15.4%		103.6	3,488	99.3%
R2	854,755	67,662	29,257	31,606	—	983,281	3,311	4,000	20.8%	56%	101.4	3,414	97.0%
R3	856,493	66,883	29,012	31,572	—	983,960	3,313	4,000	20.7%	57%	99.9	3,364	98.5%
R4	871,241	64,871	28,485	30,851	—	995,448	3,352	4,000	19.3%	63%	98.6	3,320	101.0%
R5	874,049	62,706	28,093	30,455	3,534	998,836	3,363	3,800	13.0%	73%	97.4	3,279	102.6%
R6	881,622	62,166	27,886	29,880	3,938	1,005,493	3,385	3,800	12.3%	77%	96.4	3,246	104.3%
R7	884,426	60,365	27,612	29,797	577	1,002,777	3,376	3,800	12.6%	86%	94.9	3,195	105.7%

注）数値は単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

※1　年間計画稼働日数（297日）で算出。
○R2.3 処理計画　297日(年間計画稼働日数)＝365日 － 35日(定期整備)－ 14日(中間整備)－ 19日(故障等)

※2 基本計画の数値は、H27～R1はH24.4策定、R2～はR2.3策定の処理基本計画の処理量

1　ごみ処理のひっ迫について（⑥原因の分析❷）

■R8年度のごみ処理のひっ迫の原因

・R8年3月策定の組合基本計画(現行計画)は、**稼働日数290日/365日(＝稼働率79.5%)を前提とし、R8年度は、構成市のごみ量100.3万ｔに対し、余力10%を確保(**3,800ｔ/日×290日 ＝ **110.2万ｔ)**している。

・**焼却工場へのごみの搬入量（実績）**

		※
R8年4～8月のごみ搬入量		**2,707ｔ/日**
R7年	〃	2,762ｔ/日
R6年	〃	2,793ｔ/日
R5年	〃	2,737ｔ/日

※R8年8月の堺市への搬入分1,512ｔを含めると、2,717ｔ/日

➤R8年4～8月は、過去3か年同時期に比べ減

➤R8年度のごみ量は、計画の範囲内に収まるペースで進捗

・**焼却工場の稼働状況（環境局調べ）**

➤R8年4～8月の計画停止を反映した処理能力　3,016ｔ/日　（稼働率79.4%）

➤R8年4～8月の実稼働ベースでの処理能力　2,672ｔ/日（稼働率70.3%）

令和8年４～8月は焼却工場の稼働率が低く、ごみ搬入量に対して焼却能力が不足

R8年度のひっ迫の主な原因は、焼却工場の稼働率が現行計画と比べ低いことによるものと考えられる。

■対応状況

・家庭ごみ収集作業に遅延が生じないよう、本市のごみの収集・搬入体制の調整等を実施

・8月6日から8月31日まで、本市の普通ごみを堺市の焼却工場に搬入（搬入実績：延べ1,251台、1,512t）

・9月14日から10月31日まで、守口市が家庭ごみを門真市の焼却工場に搬入（1日あたり30t程度、水土日祝除く）

●大阪広域環境施設組合及び組合構成市と連携し、安定したごみ処理体制の確保に取り組むとともに、ごみ減量施策の強化を検討していく必要がある。

1　ごみ処理のひっ迫について　【参考資料】

■焼却工場の稼働状況の推移（令和５年度～令和７年度）

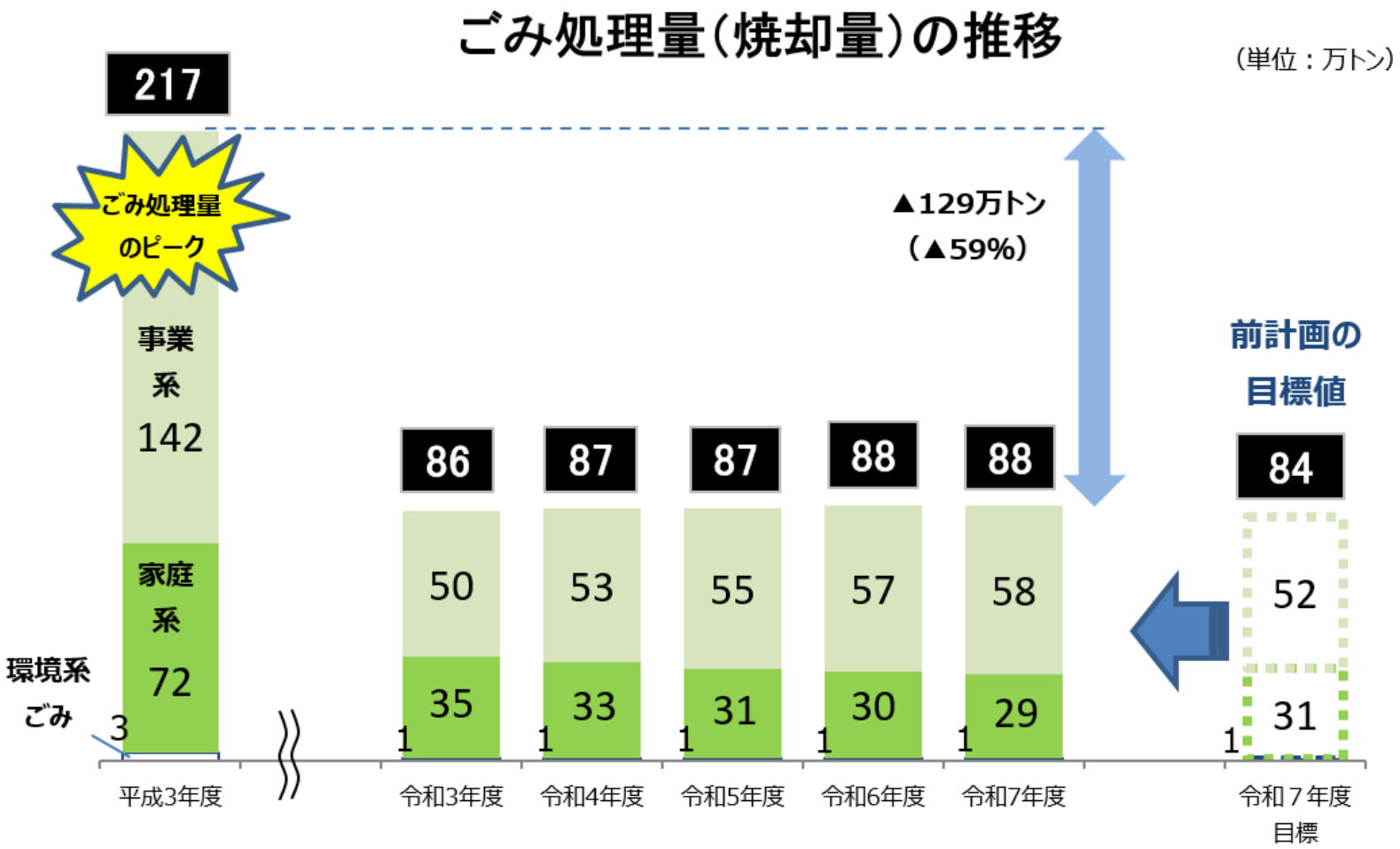
工場		処理能力	令和５年度							令和６年度							令和７年度						
			計画停止日数	計画外停止日数			停止日数計	稼働実日数	実日数/計画日数(297日)	計画停止日数	計画外停止日数			停止日数計	稼働実日数	実日数/計画日数(297日)	計画停止日数	計画外停止日数			停止日数計	稼働実日数	実日数/計画日数(297日)
				故障	その他	小計					故障	その他	小計					故障	その他	小計			
西淀	1号炉	300	93	12		12	105	261	87.9%	103	20		20	123	242	81.5%	71	7		7	78	287	96.6%
	2号炉	300	62	11		11	73	293	98.7%	84	6		6	90	275	92.6%	69	14		14	83	282	94.9%
八尾	1号炉	300	95	15		15	110	256	86.2%	84	47	2	49	133	232	78.1%	84	36		36	120	245	82.5%
	2号炉	300	139	2		2	141	225	75.8%	72	40	1	41	113	252	84.8%	75	24	20	44	119	246	82.8%
舞洲	1号炉	450	112	41		41	153	213	71.7%	54	80		80	134	231	77.8%	80	21		21	101	264	88.9%
	2号炉	450	81	56		56	137	229	77.1%	98	0		0	98	267	89.9%	82	74		74	156	209	70.4%
平野	1号炉	450	52	15		15	67	299	100.7%	71	23		23	94	271	91.2%	68	45		45	113	252	84.8%
	2号炉	450	70	19		19	89	277	93.3%	52	14		14	66	299	100.7%	52	17		17	69	296	99.7%
東淀	1号炉	200	78	11		11	89	277	93.3%	87	12		12	99	266	89.6%	79	2		2	81	284	95.6%
	2号炉	200	68	0		0	68	298	100.3%	63	0	7	7	70	295	99.3%	68	3		3	71	294	99.0%
住之江	1号炉	200	44	0		0	44	322	108.4%	62	0		0	62	303	102.0%	53	0		0	53	312	105.1%
	2号炉	200	48	0		0	48	318	107.1%	59	0		0	59	307	103.4%	53	0		0	53	312	105.1%
1炉当たり平均			79	15	0	15	94	272	91.6%	74	20	1	21	95	270	90.9%	70	20	2	22	91	274	92.3%
基本計画との比較			160.2%			79.8%	137.7%			151.2%			110.5%	139.8%			141.8%			115.4%	134.4%		
														R5～R7平均	1炉当たり		74			19	63	272	91.6%
															基本計画との比較		151.1%			101.9%	137.3%		

○ R2.3　環境施設組合基本計画

	計画停止日数	計画外停止日数			停止日数計	稼働日数
		故障	その他	小計		
1炉当たり	49			19	68	297

2　令和７年度のごみ量について

■近年のごみ処理量の推移



家庭系ごみ処理量は、減少傾向となっており、事業系ごみについては、増加傾向となっている。

2　令和７年度のごみ量について

■月別ごみ量（収集量･搬入量）の状況

（単位：ｔ）

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（年間）
家庭系	普通ごみ	R6	25,820	25,004	22,352	25,157	23,542	21,798	23,859	23,193	26,294	24,098	20,317	22,961	284,395
		R7	23,549	24,079	22,442	23,419	21,794	22,172	23,060	21,809	26,582	23,548	20,247	23,312	276,013
		対前年比	▲8.8%	▲3.7%	0.4%	▲6.9%	▲7.4%	1.7%	▲3.3%	▲6.0%	1.1%	▲2.3%	▲0.3%	1.5%	▲ 2.9%
	資源ごみ	R6	1,833	1,885	1,772	2,051	2,084	1,888	1,856	1,668	1,823	1,891	1,497	1,681	21,929
		R7	1,675	1,812	1,753	1,923	1,884	1,882	1,768	1,509	1,836	1,805	1,464	1,650	20,961
		対前年比	▲8.6%	▲3.9%	▲1.1%	▲6.2%	▲9.6%	▲0.3%	▲4.7%	▲9.5%	0.7%	▲4.5%	▲2.2%	▲ 1.8%	▲ 4.4%
	プラスチック資源	R6	1,559	1,638	1,460	1,576	1,607	1,429	1,533	1,476	1,546	1,600	1,351	1,472	18,247
		R7	1,550	1,676	1,501	1,622	1,529	1,509	1,573	1,434	1,623	1,625	1,369	1,498	18,509
		対前年比	▲0.6%	2.3%	2.8%	2.9%	▲4.9%	5.6%	2.6%	▲2.8%	5.0%	1.6%	1.3%	1.8%	1.4%
	古紙･衣類	R6	1,818	1,620	1,405	1,572	1,441	1,357	1,508	1,561	1,932	1,515	1,253	1,648	18,630
		R7	1,715	1,667	1,440	1,579	1,379	1,378	1,533	1,464	1,955	1,816	1,271	1,608	18,805
		対前年比	▲5.7%	2.9%	2.5%	0.4%	▲4.3%	1.5%	1.7%	▲6.2%	1.2%	19.9%	1.4%	▲ 2.4%	0.9%
	粗大ごみ	R6	1,685	1,757	1,412	1,538	1,406	1,370	1,488	1,478	1,812	1,185	1,230	1,562	17,923
		R7	1,607	1,697	1,378	1,445	1,375	1,331	1,431	1,366	1,731	1,183	1,300	1,570	17,414
		対前年比	▲4.6%	▲3.4%	▲2.4%	▲6.0%	▲2.2%	▲2.8%	▲3.8%	▲7.6%	▲4.5%	▲0.2%	5.7%	0.5%	▲ 2.8%
	合計	R6	32,715	31,904	28,401	31,894	30,080	27,842	30,244	29,376	33,407	30,289	25,648	29,324	361,124
		R7	30,096	30,931	28,514	29,988	27,961	28,272	29,365	27,582	33,727	29,977	25,651	29,638	351,702
		対前年比	▲8.0%	▲3.0%	0.4%	▲6.0%	▲7.0%	1.5%	▲2.9%	▲6.1%	1.0%	▲1.0%	0.0%	1.1%	▲ 2.6%
事業系	業者収集	R6	47,075	46,968	46,441	49,207	46,162	45,632	48,267	46,196	51,536	44,998	41,199	47,514	561,195
		R7	47,576	48,650	48,646	49,955	48,187	47,520	49,738	46,385	52,133	45,047	41,910	48,766	574,513
		対前年比	1.1%	3.6%	4.7%	1.5%	4.4%	4.1%	3.0%	0.4%	1.2%	0.1%	1.7%	2.6%	2.4%
	一般搬入	R6	859	899	840	805	911	736	967	737	654	674	719	980	9,781
		R7	705	821	892	854	716	722	1,016	753	723	610	719	820	9,351
		対前年比	▲17.9%	▲8.7%	6.2%	6.1%	▲21.4%	▲1.9%	5.1%	2.2%	10.6%	▲9.5%	0.0%	▲ 16.3%	▲ 4.4%
	合計	R6	47,934	47,867	47,281	50,012	47,073	46,368	49,234	46,933	52,190	45,672	41,918	48,494	570,976
		R7	48,281	49,471	49,538	50,809	48,903	48,242	50,754	47,138	52,856	45,657	42,629	49,586	583,864
		対前年比	0.7%	3.4%	4.8%	1.6%	3.9%	4.0%	3.1%	0.4%	1.3%	▲0.0%	1.7%	2.3%	2.3%
総合計		R6	80,649	79,771	75,682	81,906	77,153	74,210	79,478	76,309	85,597	75,961	67,566	77,818	932,100
		R7	78,377	80,402	78,052	80,797	76,864	76,514	80,119	74,720	86,583	75,634	68,280	79,224	935,566
		対前年比	▲2.8%	0.8%	3.1%	▲1.4%	▲0.4%	3.1%	0.8%	▲2.1%	1.2%	▲0.4%	1.1%	1.8%	0.4%

※環境系除く

2　令和７年度のごみ量について

■令和７年度ごみ収集量・搬入量、ごみ処分量、資源化量の実績

ごみ収集量・搬入量　（単位：ｔ）

区　分	①７年度実績	【参考】②６年度実績	①－②	増減率	③30年度実績	①－③
家庭系ごみ	351,702	361,124	▲ 9,422	▲2.6%	412,024	▲ 60,322
普通ごみ	276,013	284,395	▲ 8,382	▲2.9%	332,542	▲ 56,529
資源ごみ（拠点回収含む）	20,961	21,929	▲ 968	▲4.4%	24,443	▲ 3,482
プラスチック資源	18,509	18,247	262	1.4%	19,026	▲ 517
古紙	16,662	16,415	247	1.5%	17,677	▲ 1,015
衣類	2,143	2,216	▲ 73	▲3.3%	2,240	▲ 97
粗大ごみ	17,414	17,922	▲ 508	▲2.8%	16,096	1,318
事業系ごみ	583,864	570,976	12,888	2.3%	572,954	10,910
業者収集（資源・容プラ含む）	574,513	561,195	13,318	2.4%	559,998	14,515
一般搬入等	9,351	9,781	▲ 430	▲4.4%	12,956	▲ 3,605
環境系ごみ	4,164	4,512	▲ 348	▲7.7%	8,358	▲ 4,194
計	939,730	936,612	3,118	0.3%	993,336	▲ 53,606

ごみ処理量（焼却処理量）　（単位：ｔ）

区　分	①７年度実績	【参考】②６年度実績	①－②	増減率	③30年度実績	①－③
家庭系ごみ	297,441	307,349	▲ 9,908	▲3.2%	353,959	▲ 56,518
事業系ごみ	582,821	569,761	13,060	2.3%	571,431	11,390
環境系ごみ	4,164	4,512	▲ 348	▲7.7%	8,358	▲ 4,194
計	884,426	881,622	2,804	0.3%	933,748	▲ 49,322

資源化量　（単位：ｔ）

区　分	①７年度実績	【参考】②６年度実績	①－②	増減率	③30年度実績	①－③
家庭系ごみ	54,308	53,823	485	0.9%	58,124	▲ 3,816
事業系ごみ	996	1,167	▲ 171	▲14.7%	1,464	▲ 468
環境系ごみ	0	0	0	—	0	0
計	55,304	54,990	314	0.6%	59,588	▲ 4,284

2　令和７年度のごみ量について

■令和７年度から開始したプラスチック一括収集によるプラスチック資源の回収量について

プラスチック一括収集とは、家庭から出る「容器包装プラスチック」と「製品プラスチック（100%プラスチック素材でできている製品）」を「プラスチック資源」として一括して収集すること

（単位：ｔ）

種　別	令和6年度		令和7年度		増　減	
プラスチック資源回収量	18,247		18,509		262	1.4%
（うち）容器包装プラスチック	14,780	(81.0%)	15,196	(82.1%)	416	2.8%
（うち）100%製品プラスチック	―	―	1,407	(7.6%)	1,407	7.6%
（うち）それ以外の異物	3,467	(19.0%)	1,906	(10.3%)	▲1,561	▲45.0%

※令和6年度は製品プラスチックが回収対象外であったため、排出されたものは「それ以外の異物」に含まれている。

【一括回収開始後の状況】

・プラスチック資源回収量は前年度から262トン（1.4%）増加した。
新たに回収対象とした製品プラスチックは1,407トンを回収し、
容器包装プラスチックも416トン（2.8%）増加したことから、プラスチック資源循環の促進に一定の効果があったものと考えられる。

3　令和７年度ごみ量と前計画との比較について

■令和７年度ごみ処理量の目標値と実績値について

（単位：万ｔ）

	令和７年度（前計画目標年度）		差引
	目標値	実績値	
家庭系ごみ	31.8	29.7	▲2.1
事業系ごみ	51.5	58.3	6.8
環境系ごみ	0.5	0.4	▲0.1
合計	83.7	88.4	4.7

※端数処理の関係で合計が合わないことがある

（参考）前計画期間におけるごみ処理量の推移

（単位：万ｔ）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
家庭系ごみ	35	35	33	31	30	29
事業系ごみ	50	50	53	55	57	58
環境系ごみ	1	1	1	1	1	1
合計	**86**	**86**	**87**	**87**	**88**	**88**

3　令和７年度ごみ量と前計画との比較について

■前計画の主な減量内訳と進捗

（単位：万ｔ）

家庭系	①減量目標	②進捗状況	③差（①－②）
食品ロス削減の取り組み	▲0.7	▲0.8	0.1
大阪エコバッグ運動などプラ削減	▲0.6	▲0.5	▲0.1

事業系	①減量目標	②進捗状況※	③差（①－②）
食品ロス削減の取り組み（大規模）	▲0.8	▲1.9	1.1
食品ロス削減の取り組み（中小）	▲1.4	▲3.8	2.4
適正排出の取り組み【産廃】（大規模）	▲0.2	0.2	▲0.4
適正排出の取り組み【産廃】（中小）	▲0.8	1.7	▲2.5
適正排出の取り組み【紙類】（大規模）	▲0.5	0.3	▲0.8
適正排出の取り組み【紙類】（中小）	▲0.4	1.8	▲2.2

※事業系一般廃棄物排出実態調査を基に推計

　家庭系ごみについては処理量について計画目標を達成したものの、引き続き、食品ロスやプラ削減に向けた取組を進める。

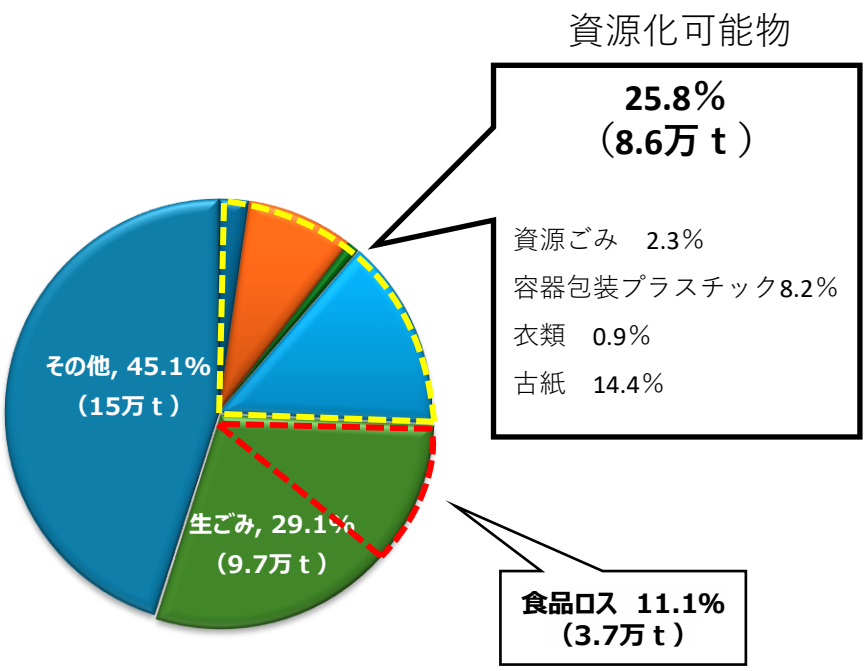
　一方で、事業系ごみは、食品ロス削減は目標以上に進んだものの、社会経済状況の活性化等により、処理量全体では計画目標に達しなかったことから、引き続き事業系食品ロス削減対策を実施するとともに、目標を達成できなかった、産業廃棄物の適正区分・適正処理の推進や、資源化可能な紙類の資源化ルートへの誘導に注力する必要がある。

3　令和７年度ごみ量と前計画との比較について

■家庭系ごみ（普通ごみ）の組成

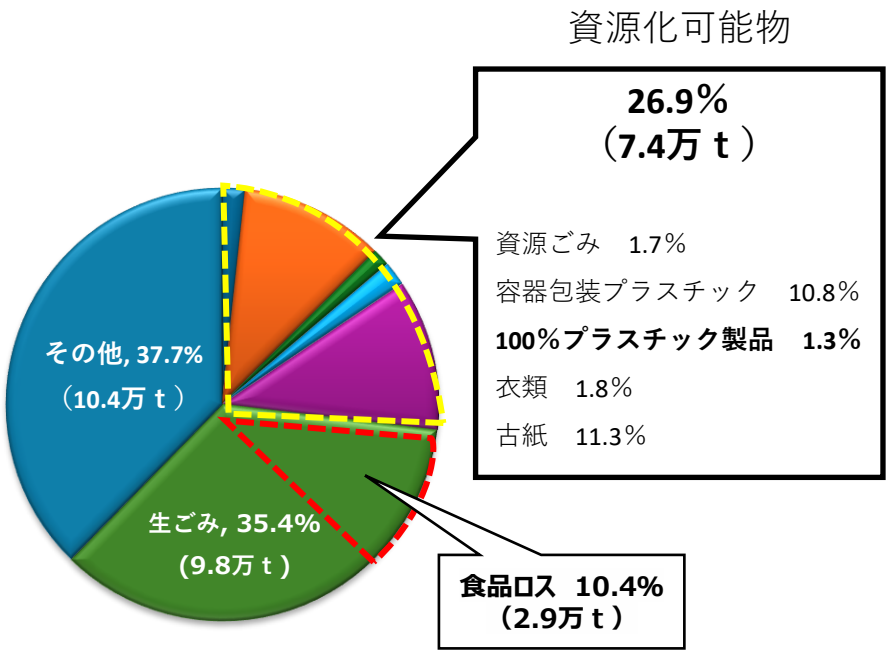
組成率と推計量（H30）
総量：33.3万ｔ

【H30家庭系一般廃棄物排出実態調査を基に推計】



組成率と推計量（R7）
総量：27.6万ｔ

【R7家庭系一般廃棄物排出実態調査を基に推計】



平成30年度（前計画基準年度）と比較して、家庭系ごみ（普通ごみ）の総量は▲5.7万トン減少しており、分別排出できるものについても▲1.2万トン、食品ロスについても▲0.8万トンの減少となっている。

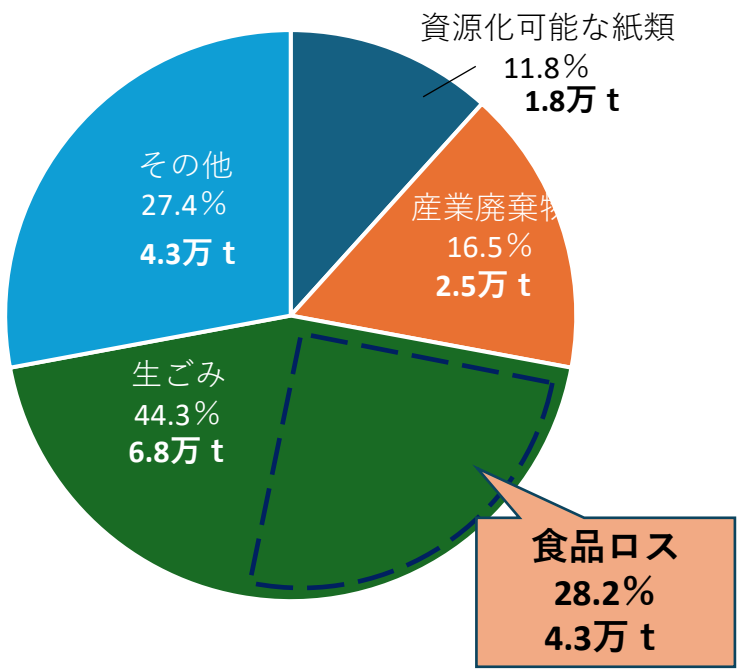
3　令和７年度ごみ量と前計画との比較について

■事業系ごみ（大規模事業所※）の組成

※大規模事業所：市条例等で定める多量の事業系廃棄物を生ずる建築物　（一定規模以上の事務所・店舗・ホテル・工場・倉庫など約4,200件）

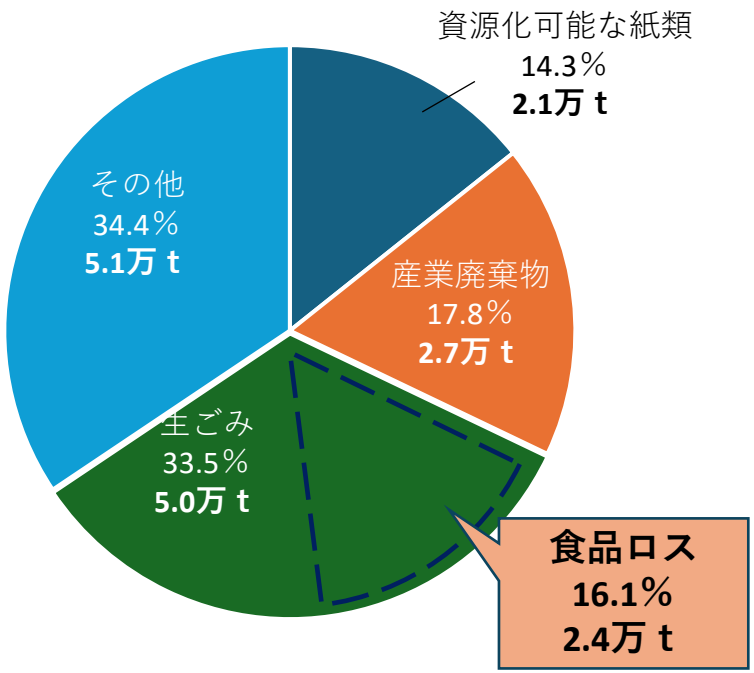
組成率と推計量（H30）
推計総量：15.4万 t

【H29事業系一般廃棄物排出実態調査を基に推計】



組成率と推計量（R7）
推計総量：14.9万 t

【R7事業系一般廃棄物排出実態調査を基に推計】



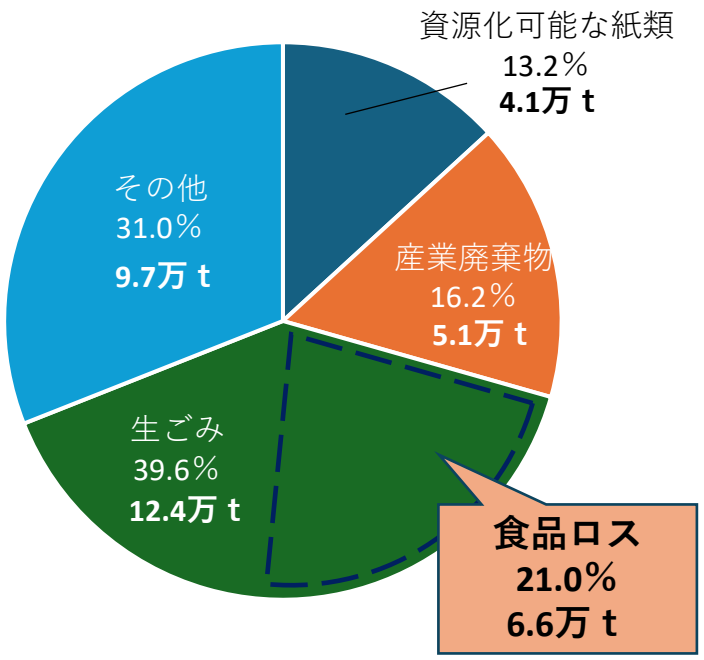
平成30年度（前計画基準年度）と比較して、総量は▲0.5万トンの減少となっており、食品ロスが▲1.9万トンの減少となっている一方で、資源化可能な紙類が0.3万トン、産業廃棄物が0.2万トンそれぞれ増加している。

3　令和７年度ごみ量と前計画との比較について

■事業系ごみ（大規模事業所以外の事業所）の組成

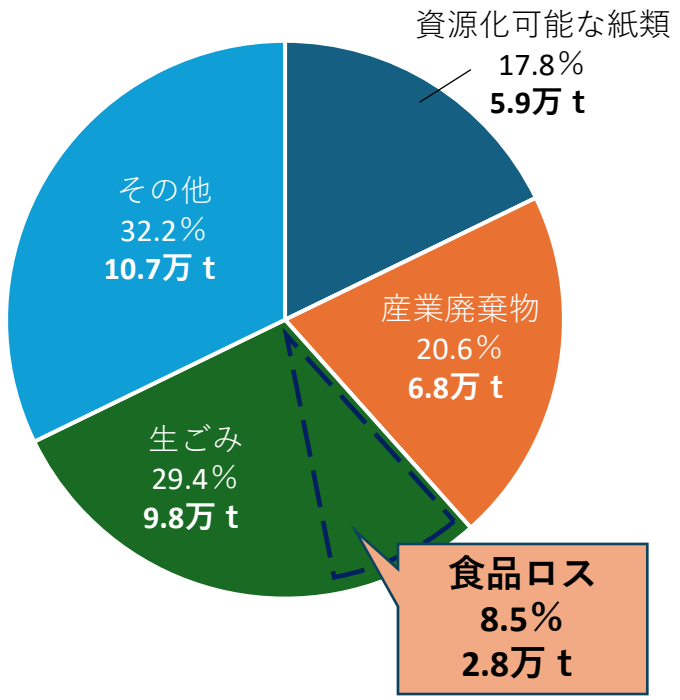
組成率と推計量（H30）
推計総量：31.3万 t

【H30事業系一般廃棄物排出実態調査を基に推計】



組成率と推計量（R7）
推計総量：33.2万 t

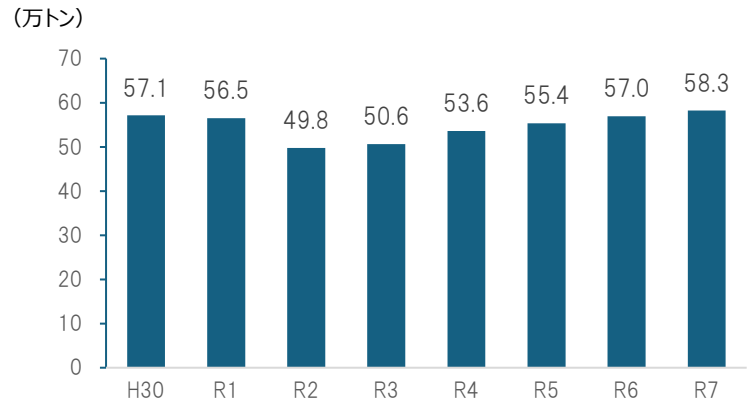
【R4事業系一般廃棄物排出実態調査を基に推計】



平成30年度（前計画基準年度）と比較して、総量が1.9万トンの増加となっているなかで、食品ロスが▲3.8万トンの減少となっているが、資源化可能な紙類が1.8万トン、産業廃棄物が1.7万トンそれぞれ増加している。

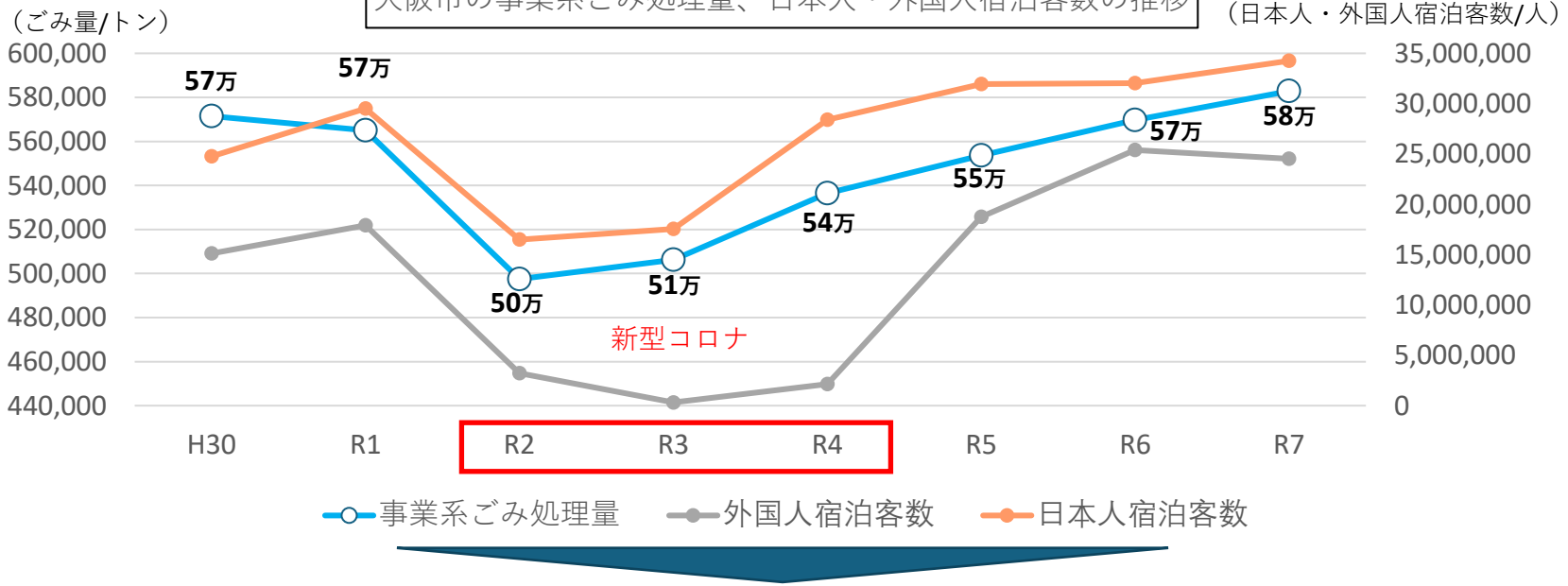
3　令和７年度ごみ量と前計画との比較について

事業系ごみ処理量（焼却量）の推移



●新型コロナウイルスの影響により、令和2年度のごみ処理量は大きく減少したが、コロナ禍からの回復とともに増加傾向にある。

大阪市の事業系ごみ処理量、日本人・外国人宿泊客数の推移



景気の緩やかな持ち直し基調の継続やインバウンドの回復は、事業系ごみの増加に影響を与える可能性が高い。

4　令和８年度のごみ量について

■月別ごみ量（収集量・搬入量）の状況（速報値）　※環境系除く

			4月	5月	6月	7月	8月	合計（4～8月）	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（年間）
家庭系	普通ごみ	R7	23,549	24,079	22,442	23,419	21,794	115,283	22,172	23,060	21,809	26,582	23,548	20,247	23,312	276,013
		R8	23,179	22,728	22,997	22,864	21,560	113,328	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	▲1.6%	▲5.6%	2.5%	▲2.4%	▲1.1%	▲1.7%	－	－	－	－	－	－	－	－
	資源ごみ	R7	1,675	1,812	1,753	1,923	1,884	9,047	1,882	1,768	1,509	1,836	1,805	1,464	1,650	20,961
		R8	1,613	1,707	1,726	1,844	1,827	8,717	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	▲3.7%	▲5.8%	▲1.5%	▲4.1%	▲3.0%	▲3.6%	－	－	－	－	－	－	－	－
	プラスチック資源	R7	1,550	1,676	1,501	1,622	1,529	7,878	1,509	1,573	1,434	1,623	1,625	1,369	1,498	18,509
		R8	1,535	1,526	1,506	1,571	1,464	7,602	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	▲1.0%	▲8.9%	0.3%	▲3.1%	▲4.3%	▲3.5%	－	－	－	－	－	－	－	－
	古紙･衣類	R7	1,715	1,667	1,440	1,579	1,379	7,780	1,378	1,533	1,464	1,955	1,816	1,271	1,608	18,805
		R8	1,707	1,628	1,448	1,583	1,387	7,753	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	▲0.5%	▲2.3%	0.6%	0.3%	0.6%	▲0.3%	－	－	－	－	－	－	－	－
	粗大ごみ	R7	1,607	1,697	1,378	1,445	1,375	7,502	1,331	1,431	1,366	1,731	1,183	1,300	1,570	17,414
		R8	1,566	1,534	1,438	1,442	1,384	7,364	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	▲2.6%	▲9.6%	4.4%	▲0.2%	0.7%	▲1.8%	－	－	－	－	－	－	－	－
	合計	R7	30,096	30,931	28,514	29,988	27,961	147,490	28,272	29,365	27,582	33,727	29,977	25,651	29,638	351,702
		R8	29,600	29,123	29,115	29,304	27,622	144,764	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	▲1.6%	▲5.8%	2.1%	▲2.3%	▲1.2%	▲1.8%	－	－	－	－	－	－	－	－
事業系	業者収集	R7	47,576	48,650	48,646	49,955	48,187	243,014	47,520	49,738	46,385	52,133	45,047	41,910	48,766	574,513
		R8	47,604	47,139	47,050	49,058	46,620	237,471	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	0.1%	▲3.1%	▲3.3%	▲1.8%	▲3.3%	▲2.3%	－	－	－	－	－	－	－	－
	一般搬入	R7	705	821	892	854	716	3,988	722	1,016	753	723	610	719	820	9,351
		R8	824	711	893	711	797	3,936	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	16.9%	▲13.4%	0.1%	▲16.7%	11.3%	▲1.3%	－	－	－	－	－	－	－	－
	合計	R7	48,281	49,471	49,538	50,809	48,903	247,002	48,242	50,754	47,138	52,856	45,657	42,629	49,586	583,864
		R8	48,428	47,850	47,943	49,769	47,417	241,407	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	0.3%	▲3.3%	▲3.2%	▲2.0%	▲3.0%	▲2.3%	－	－	－	－	－	－	－	－
総合計		R7	78,377	80,402	78,052	80,797	76,864	394,492	76,514	80,119	74,720	86,583	75,634	68,280	79,224	935,566
		R8	78,028	76,973	77,058	79,073	75,039	386,171	－	－	－	－	－	－	－	－
		対前年比	▲0.4%	▲4.3%	▲1.3%	▲2.1%	▲2.4%	▲2.1%	－	－	－	－	－	－	－	－

令和8年度のごみ量の見込みについては、家庭系ごみについては、令和７年度に引き続き、全ての収集区分で減少傾向にある。また、事業系ごみについても減少傾向となっている。

4　令和８年度のごみ量について

■　令和８年度のごみ処理量の年間見込みについて（８月速報ベース）

（単位：万ｔ）

	一般廃棄物処理実施計画（※）	令和８年度処理量見込み	差　引
家庭系	29	**29**	±0
事業系	59	**57**	▲２
合　計	88	**86**	▲２

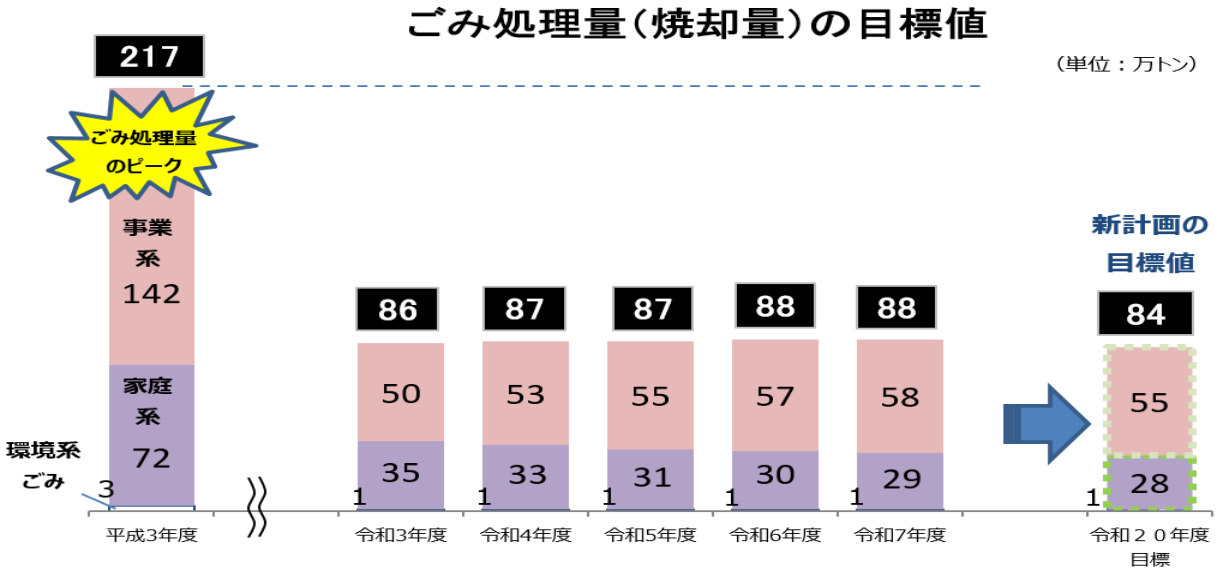
※　一般廃棄物処理実施計画とは、一般廃棄物処理基本計画（令和8年度～令和20年度）に基づき、毎年度、定めている計画
※　環境系除く

・令和8年度のごみ量の処理量見込みは**約86万トン**となる見込みであり、
令和７年度に策定した処理基本計画における令和8年度の計画量**約88万トン**を
約２万トン下回る見込みとなっている。

・家庭系ごみについては、概ね計画通りに推移しており、
事業系ごみについても、**約２万トン減少**する見込みであることから、計画を下回ると考えられる。

5　さらなるごみ減量の推進について

■　現一般廃棄物処理基本計画（令和８年３月度策定）のごみ処理量の目標



・現計画における事業系ごみの減量計画　　（単位：万ｔ）

	令和６年度（基準年度）	令和8年度（実施計画）	減量計画量	令和20年度（目標年度）
事業系ごみ	57.0	58.7	△ 3.8	54.9
産業廃棄物（プラスチック等含む）	10.4	-	△ 2.0	8.4
資源化可能な紙類	8.3	-	△ 1.6	6.7
食品ロス	6.7	-	△ 0.4	6.3

【事業系ごみの減量】

・産業廃棄物（18.2%）※
搬入不適物であり、適正処理を推進

・資源化可能な紙類（14.6%）※
搬入禁止対象物であり、資源化を推進

・食品ロス（11.8%）※
食品ロス削減を目指す

※令和６年度（基準年度）組成割合

いずれも本来混入されてはならない性質の廃棄物が大きな割合（44.6%）を占めている状況であり、
目標年度のごみ処理量を84万トンとする目標を変更することなく、引き続き減量施策を推進する必要がある。

5　さらなるごみ減量の推進について

■　家庭系ごみの減量の取り組み

「Push for Eco!(大阪エコ推し)」運動

・大阪市では、「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」に基づき、エコバッグ携帯を呼び掛ける「大阪エコバッグ運動」など、市民・事業者の皆さんと連携しながらレジ袋の削減に取り組んできました。

・その成果を活かし、エコバッグやマイボトルの携帯や詰め替え商品や代替品の選択など使い捨てプラスチック全般の削減や資源循環促進の取組を「Push for Eco!　（大阪エコ推し）」運動として実施していきます。



取組内容の例

・エコバッグ持参の呼びかけ
・プラスチック製カトラリーの素材変更
・詰め替え商品の促進
・軽量トレイ・ノントレイによるプラスチック使用削減
・エコトレイ（再生品）の採用
・店頭リサイクル回収

Push for Eco!
大阪エコ推し運動

フードドライブの推進

・「食品ロス」削減の取組の1つとして、ご家庭で余った食品を回収し、社会福祉協議会等を通じて、子ども食堂や母子支援施設など、食の支援を必要とする団体等に無償で譲渡する取組

・区役所での実施のほか、協定を締結した民間事業者の店舗等において、フードドライブの受付回収を実施
（令和８年８月末実施場所136か所）

・定期開催場所に加え、イベントの場を活用したフードドライブも実施し、定期開催場所への案内を行い、フードドライブの取組を周知

年度	実施行政区	実施箇所数	回収量（Kg）		合計（Kg）
			本市	民間事業者	
R 2	5区	6	459	-	459
R 3	19区	42	1,552	2,912	4,464
R 4	23区	74	2,908	7,453	10,361
R 5	24区	85	2,923	7,323	10,246
R 6	24区	98	2,345	6,978	9,323

5　さらなるごみ減量の推進について

ジモティースポットのオープン

リユースの取組みは、これまで・・・
・着用期間が限られるマタニティウェアや子ども服等の展示提供
・ガレージセール
・インターネットを利用したリユース事業者との連携（粗大ごみ）による取り組みを進めてきた。

新たなリユースのリユースの取組みとして・・・

・令和８年５月
住之江区内に「ジモティースポット大阪住之江店」を開設
（本市は、株式会社ジモティーと 令和４年10月に連携協定を締結し、リユース活動の促進に取り組んでいる。）

・ジモティースポットを通じて、市民の方が貴重な資源を有効活用し、ごみ減量につなげていけるよう、広報に協力し、連携して取組を進めている。



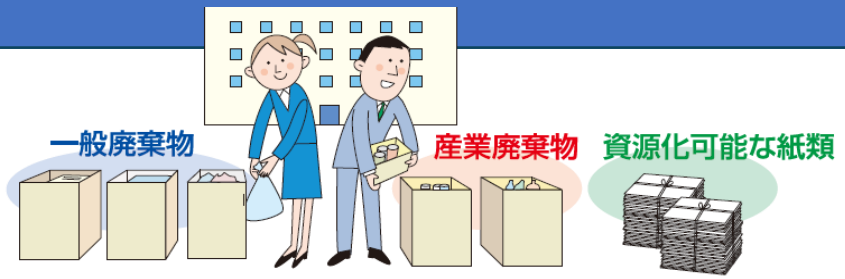


ジモティースポット大阪住之江店　令和８年度実績				
	5月	6月	7月	8月
持込者数	119	584	465	517
譲受者数	99	1,349	1,301	1,500
持込点数	652	5,235	4,579	5,159
譲受（リユース）重量(Kg)	585	7,116	6,311	8,058

※開設日：令和８年５月28日

5　さらなるごみ減量の推進について

■　事業系ごみの減量の取り組み



これまでの削減施策

- **大規模事業所(特定建築物)**：一定規模以上の事務所・店舗・ホテル・工場・倉庫など**約4,200件**
  （R7推計量14.9万トン、全体の約25%）

  → 廃棄物管理責任者の選任と減量計画書の提出を義務づけ、立入検査・講習・助言で改善支援（２年ごと）
- **中小規模事業所**：市内の事業所**約22万件**のうち、上記の特定建築物を除いたもの
  （R7推計量33.2万トン、全体の約57%）

  → 資源化可能な紙類やプラの混入率の高い業種への個別訪問による啓発の実施（年約4,000件）
- **アパート・マンション(許可業者が収集※)**：**約2万件**　※本来は家庭系ごみだが、許可業者が収集するものは事業系として計上
  （R7推計量10.3万トン、全体の約18%）

  →搬入物検査で資源化可能なものが発見された際、収集業者・排出者に対して、個別に啓発・指導（年約10件）

今年度から実施している新たな削減取組

【特定建築物排出指導におけるプッシュ型支援の実施】

- 立入検査時の確認項目のうち、産業廃棄物や資源化可能な紙類の分別・適正処理に関する項目を特に重点的に確認
- 取組が不十分であった場合には改善策を提案、後日改善状況の確認を実施し、事業者の行動変容を図る

【中小規模事業所、アパートマンションへの啓発・指導】

- 許可業者に残置の徹底と分別状況の悪い排出者の報告を依頼し、排出者への啓発・指導を協力して実施

5　さらなるごみ減量の推進について

事業系「食品ロス」対策

- 食品ロスの削減につながるメニューの導入や啓発活動などに取り組む飲食店等を「食べ残しゼロ推進店」として登録する「大阪市食べ残しゼロ推進店舗登録制度」を実施
- 飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰るための「ドギーバッグ」の普及促進
- 会食や宴会時で、最初の30分間と最後の10分間は、自分の席で料理を楽しむことで食べ残しを減らそうと呼びかける「30・10（さんまるいちまる）運動」の普及促進



大阪市食べ残しゼロ
推進店ステッカー



ドギーバッグ



30・10（さんまるいちまる）運動